

定期巡回・随時対応型訪問介護看護会議録

令和 6 年 2 月 29 日木曜日 14:00~15:00 於:株式会社ゆりかご

定期巡回・随時対応型訪問介護看護(令和 5 年度第 2 回総評)

平均月別利用者数 20.1 人(令和 5 年 4 月~令和 6 年 2 月現在)(前回 17.5 人)

平均要介護度 2.95(前回 3.03)

ヒルズ入居者比率 50.0%(令和 6 年 2 月現在)(前年 41.1%)

看護付き 11 件(前年度 8 件)

売上 3,700,000 円/月ほど(前回 3,300,000 円/月)

総評

利用者数は 15~20 人の間で昨年より増えて、数字的なばらつきはあるが、安定できています。外部からの依頼は相対的には減少しました。退院直後、状態安定するまでなどスポット的に対応するケースは、この 6 か月においては認知症利用者への広がりもみられており、かつ医療依存度の高い利用者への件数も増加しております。医療保険における訪問看護への依頼は依然と多く、定期巡回としては件数維持でした。介護負担の増大などにおいて、定期巡回の需要度が高まり、幅広く対応できることが、マッチングにつながっていることがわかりました。

また、この 6 か月で、コロナ感染やクラスター発生はなく、大きな影響を受けることなく経過できています。職員においては、連日感染対策を実施しながらケアに介入し、一人もケア中に感染者を出すことなく実施できました。

今後の方向性としては、利用者数を 25 人くらいで安定させていきたいです。しかし、数値目標にとらわれず、その方に合ったサービスや制度のご提案もしていき、法人全体だけでなく、地域圏域の事業所へのアプローチもさらに強化してまいります。

傾向としては高齢者支援センター等からの独居・困難事例はご紹介いただいています。退院後、生活ができるか不安な独居の認知症高齢者が慣れるまでの支援、認知機能低下で障害者の息子を介助していた方が介助できなくなってきたり、支援を柔軟に組み立てていきたいケース、認知症の糖尿病患者の血糖コントロール維持のためのインスリン投与見守り支援など認知症の利用者増加が目立ちました。

また、最近医療依存度が高い方の支援が増えており、ご自宅で看取りするケースも令和 5 年度では 31 件であり、昨年度よりは減少しておりますが、依然多い人数を維持されています。(令和 4 年度は 43 件)でした。(実績計上は訪問看護として算定されているので、定期巡回での実績とはなっていないが、これは一体型の事業所だからこそできる特徴と考えられます。)

自己評価について

質問 1: 新人含め知らない人はいなかったが、意味まで理解しているには至っていない。また、できていないと受け止める人は 4 名。

質問 5: 前回より介護・看護の共有機会は改善されているが、もっと必要と感じている職員がいた。

質問 10~18: 利用者アセスメントや計画作成、モニタリングはできていないことが多いが増加した。⇒今年度研修の「介護課程」により、できていると思っていたことが、できていなかったという意見が多かった。

質問 21：看護師でケアマネに提案していく意識が低かった。（指示系統の問題？）

質問 27：個人としてできなかったという評価だが、訪問介護と訪問看護の管理者が弱かったという結果。

質問 28：前回よりできていないことが多いが増えている。現場が忙しくなると、計画を意識してられないという意見が多かった。

出席者からのご意見

・デジタル社会が進むにつれて、そこに追いつけなくなる人が出てくる。そこで一人暮らしの高齢者や高齢世帯で、社会とつながりが希薄となるケースは増えるだろう。この定期巡回サービスとは違う意見になるかもしれないが、町内会の輪番制システムを再考しなくてはならない。社会とのつながりが、本当に必要な高齢者ほど抜けていってしまうからだ。高齢者世帯で最期まで家で過ごす人は、多くがアナログな社会で過ごす人であり、定期巡回サービスは、このデジタル社会とアナログ社会をつなぐようなサービスにも思える。

・飯富地区の活性化は、元の地区（飯富町、藤井町、岩根町、成沢町）と藤が原地区との融合具合で感じる。藤が原地区は、元の地区より後に数年かけて自治会に入ってもらった地区であり、はじめは、元の地区が家族だとすると、藤が原地区は親戚であり、非常にいろいろなことに気を遣い、お客様のように対応していたが、今は同じ感覚で活動ができるようになってきたと感じている。このような中で、地域との活動では、ぜひ「飯富まつり」に参加してもらいたい。食べ物を販売するのもいいが、ゆりかごの強みを活かした「健康体操」や「レクリエーション」をピンクのユニフォームで出演してもらってもよい。訪問看護や定期巡回のサービス紹介をするブースがあったり、そこで個別相談ができたりすると良いのではないかな。

・いろいろなお話を聞いて、為になることも多いが、その場を離れると忘れてしまう。どのように自分事にするか、地域の日常活動に落とし込むか、これが難しいと思う。皆さんの活動を、日常の記憶にとどめておくことができるにはどうすればよいかを考えることが地域活動だと思う。

・評価について改めて難しさを感じた。研修により、新たな学習をすることで、自分ができていると思っていたことが、実はできていないのではないかと気づき、結果評価が変わってくる。今見えている評価が高くても、自己評価の高さと、サービスの質は一致するとは限らない。飯富地区には 3570 人住んでいる。イベントは 400 名来てくれれば成功だと思う。でもよく考えれば 1 割くらいの人しか来ていないという側面もある。どこにゴールを持つかによっても、評価は変わるのだと思う。

・おひとりさまが増えている。団地に住んでいる人から何度も寂しいという電話を受けた。それがきっかけで、生活課題と合わせて移動販売車を藤内神社と十万原住宅に呼ぶようになり、そこに人が集まるきっかけを作った地域でもある。だからこそ、人が集まる、人が移動するということで、人が触れ合う機会ができて、健康につながっていくのではないかなと思う。

・行政として、日常的に使っている言葉が、市民にとってわかりやすいかどうかを、改めて意識して見直し、少しでも皆さんにとってわかりやすい情報発信に努めたい。

皆さまのご意見を活かしながら、今後の運営に役立ててまいります。

ありがとうございました。

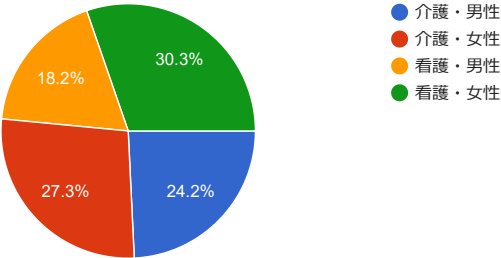
定期巡回・自己評価（令和5年度第2回）

33 件の回答

[分析を公開](#)

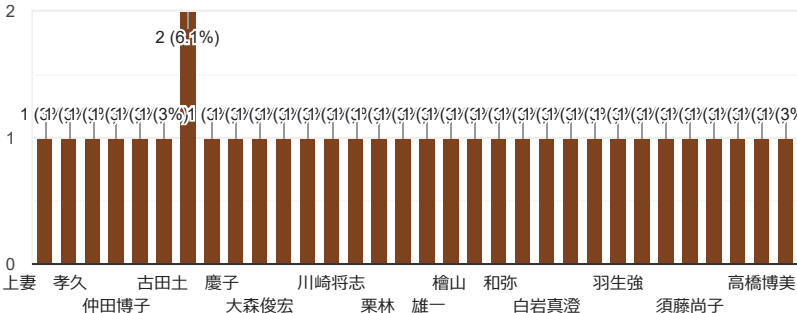
属性をお答えください。

33 件の回答



お名前をご入力ください。

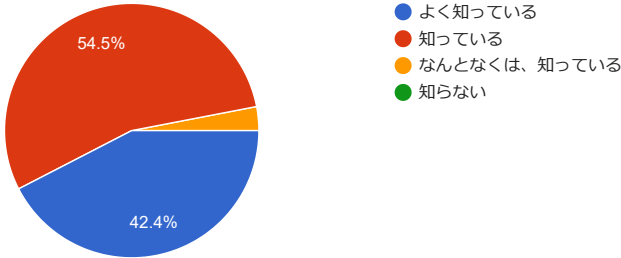
33 件の回答



当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げていることを知っている。

法人理念：「一期一会」 今年度目標：「原点回帰」

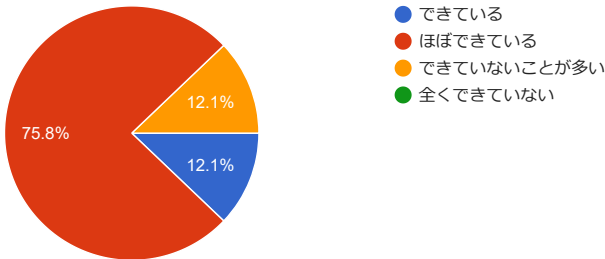
33 件の回答



管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している。

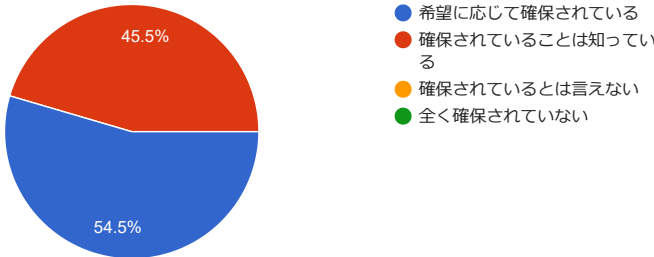
法人理念：「一期一会」今年度目標「幸せの輪を広げよう」

33 件の回答



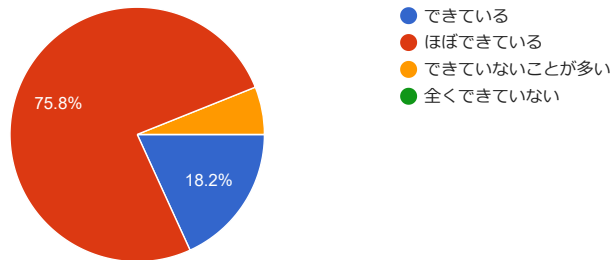
運営者は、専門技術（アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など）の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している。

33 件の回答



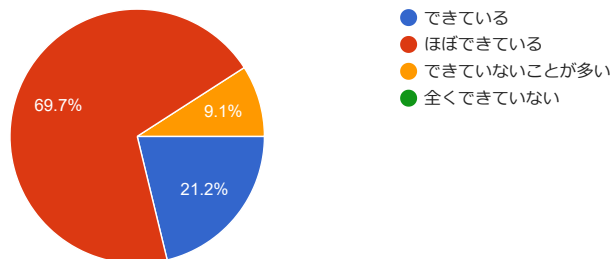
管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している。

33 件の回答



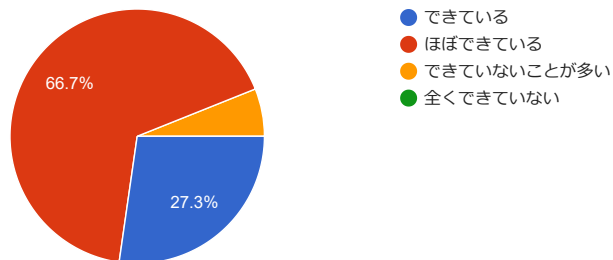
介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている。

33 件の回答



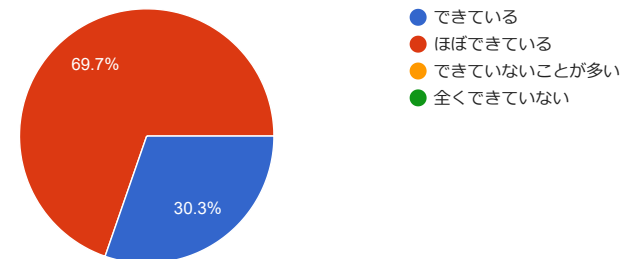
利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置（業務・シフトの工夫）を行っている。

33 件の回答



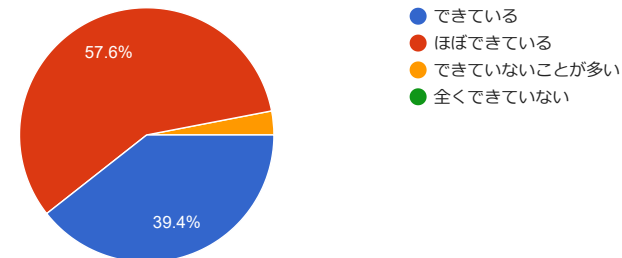
介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等（サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等）を、サービスの提供等に適切に反映させている。（カカオ掲示板参照）

33 件の回答



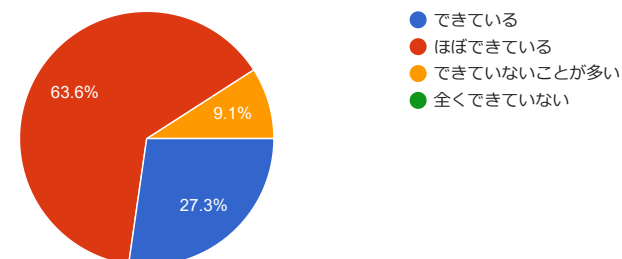
利用者等の状況について、（個人情報管理に配慮した上で）必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている。

33 件の回答



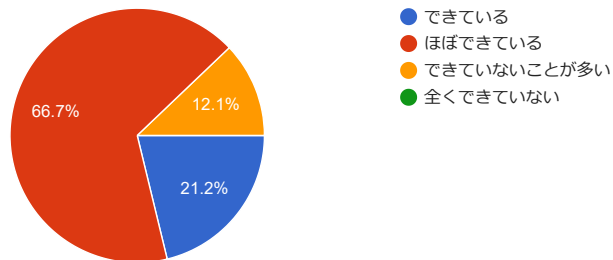
利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている。

33 件の回答



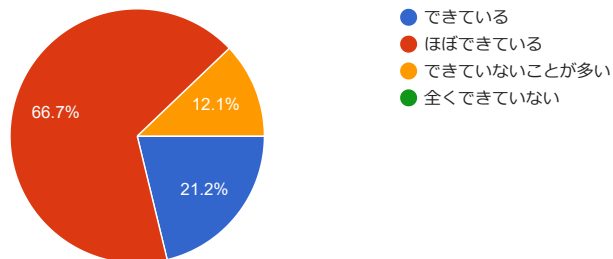
介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている。

33 件の回答



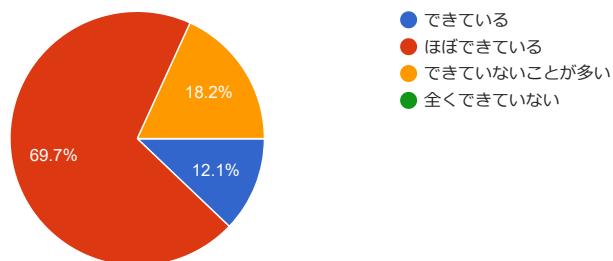
利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている。

33 件の回答



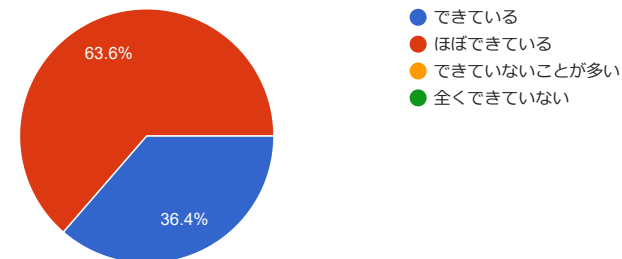
重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている。

33 件の回答



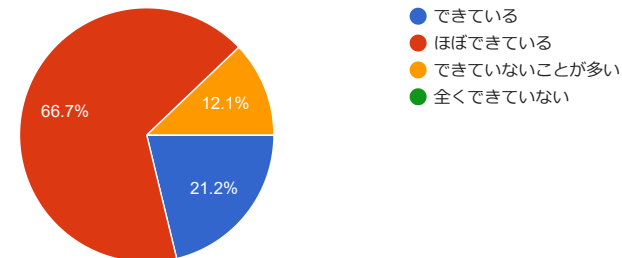
計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている。

33 件の回答



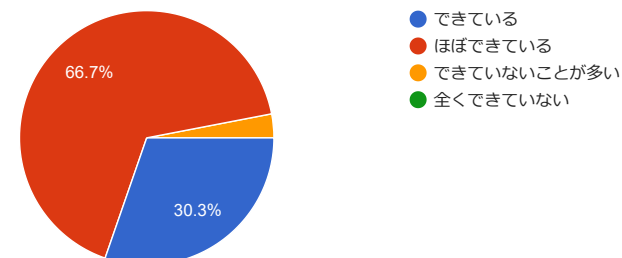
サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている。

33 件の回答



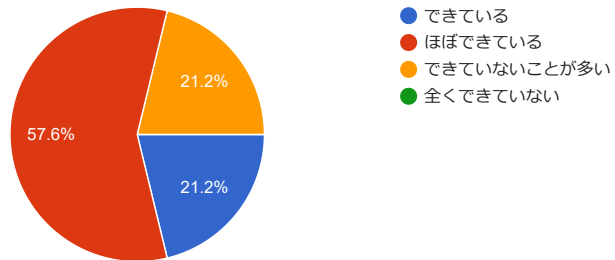
より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている。

33 件の回答



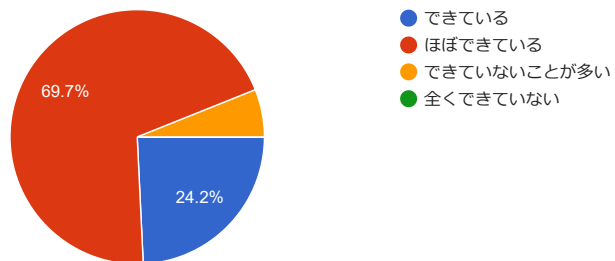
看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている。

33 件の回答



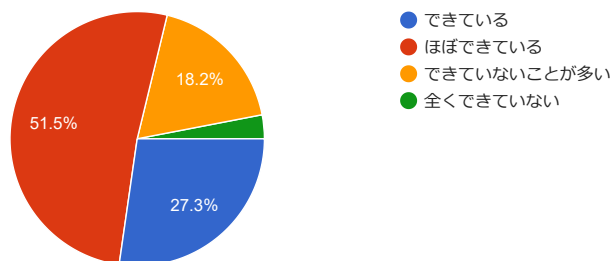
サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている。

33 件の回答



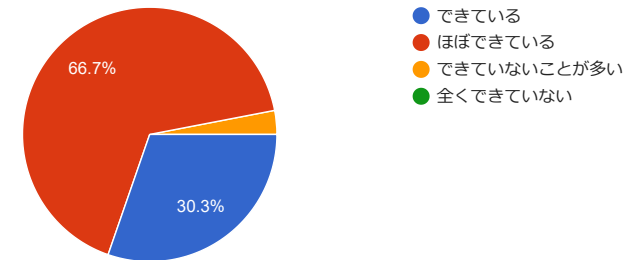
作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている。

33 件の回答



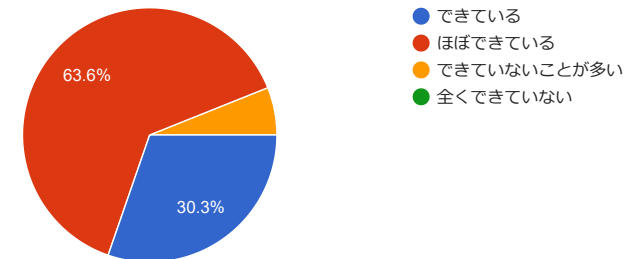
利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている。

33 件の回答



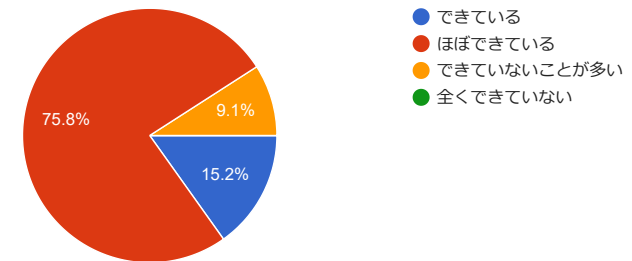
ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている。

33 件の回答



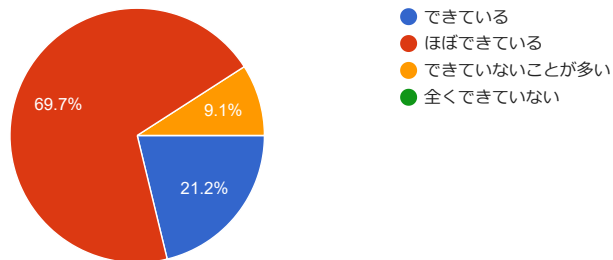
計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案（地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む）が行われている。

33 件の回答



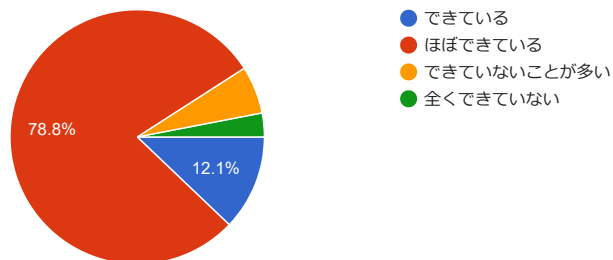
サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている。

33 件の回答



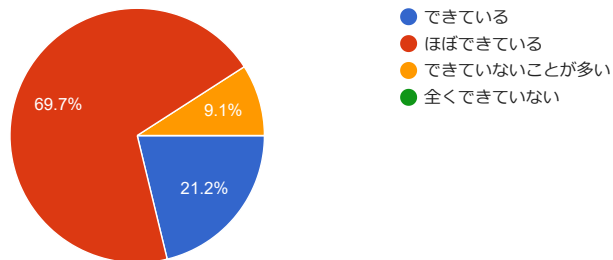
利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート（保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む）について、必要に応じて多職種による検討が行われている。

33 件の回答



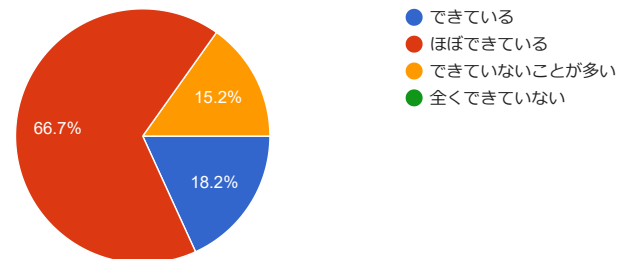
病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている。

33 件の回答



地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている。

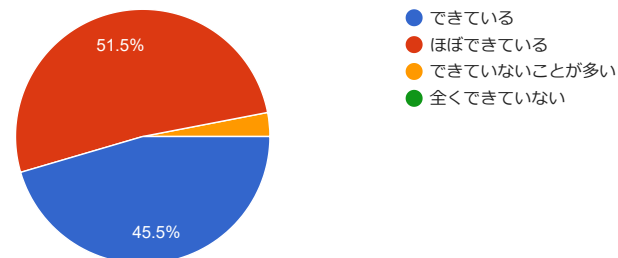
33 件の回答



介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている。

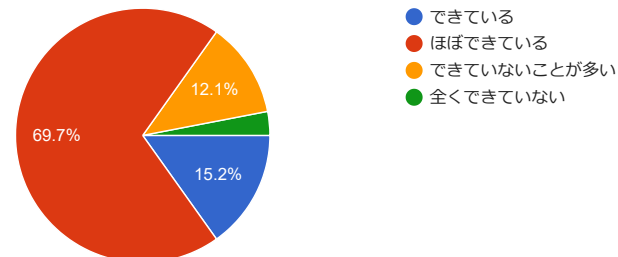
（ホームページに公開中<https://www.yurikago-kaigo.com/kaigo/incl/index.html>）

33 件の回答



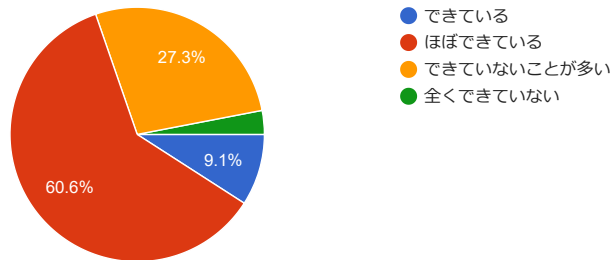
当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている。

33 件の回答



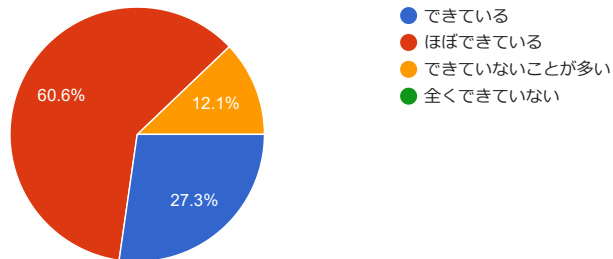
行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している。

33 件の回答



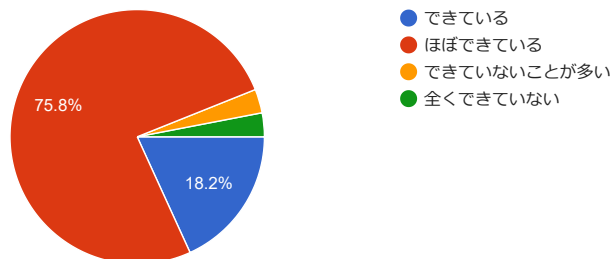
サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている。

33 件の回答



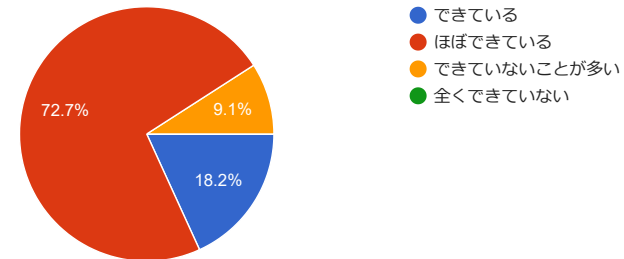
当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている。

33 件の回答



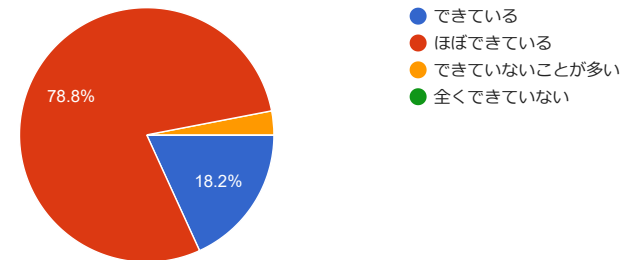
サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている。

33 件の回答



サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている。

33 件の回答



このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

